

レジリエンスとしての高齢者学習活動の行為分析について発表

2016年10月17日

10月15日(土)に開催された平成28年度 日本デザイン学会第5支部 研究発表会において、株式会社サムライトが九州大学と共同で行っている研究に関して、下記のような発表を行いました。

『レジリエンスとしての高齢者学習活動の行為分析』

劉 瑾 1) 尾方 義人 2) 藤 智亮 2) 光岡 眞里 3) 藤田 徹郎 3) 田上 暢顕 3)

1)九州大学大学院芸術工学府 2)九州大学大学院芸術工学研究院 3)株式会社サムライト

株式会社サムライトでは『脳若』のサービス価値向上のために、昨年度より『九州大学芸術工学院・応用生理人類学研究センター』と共同研究を実施しています。そして、今年度の研究テーマは『認知機能のレジリエンス向上のためのコンテンツ開発に関する研究』というものです。『レジリエンス・デザイン』の考えに基づく、脳若トレーニングの成果(効果)をフィードバックするサービス(Fアプリ)の開発を、その最終目標としています。

株式会社サムライトではこれまで九州大学と協力し、高齢者の行動をモーションセンサーなどで外部から捉え分析するだけで対象高齢者の認知機能を定量化できると仮定し、実現に向けて研究・実験を重ねてきました。その結果、生理値や心理値の計測を行うことなく、物理値(行為・行動)の計測を行うのみで認知機能を定量化できる方法が導かれました。この技術を応用すれば、ソフトウェアにて自動で認知機能を測定することも可能となると考えられます。

今回はこの結論に至るまでの概要について発表を行ったものです。今後はこの定量化方法を『脳若』アプリケーションソフトウェアに実装し、更には認知症予防活動を自動車学校の高齢者教室などへ応用することにより、より安全で生きがいのある仕組みづくりにも貢献していくことを目指しています。



<本件に関するお問い合わせ先>

株式会社サムライト 事業統括部 サービス・プロダクト開発グループ 藤田(フジタ)・田上(タガミ)

TEL : 092-852-5252 FAX : 092-852-5255